

永井遺跡 2

2015（平成 27）年

四日市市教育委員会

例 言

- 1 本書は、三重県四日市市尾平町地内に所在する「永井遺跡（ながいいせき）」の発掘調査報告書である。なお、調査は平成 21 年度に第 3 次調査、平成 26 年度に第 4 次調査を実施し、本書で合わせて報告する。
- 2 発掘調査は、四日市市上下水道局の尾平污水管渠布設工事に伴う事前調査として、四日市市教育委員会社会教育課が実施した。
- 3 調査にかかる経費は、「埋蔵文化財の保存措置及び発掘調査に関する協議」に基づき、四日市市上下水道局が全額負担した。
- 4 第 3 次調査は、現地調査を平成 21 年 1 月 13 日から 1 月 16 日まで、第 4 次調査は、現地調査を平成 27 年 1 月 7 日から 1 月 13 日まで実施した。整理作業は平成 27 年 3 月 31 日まで実施した。
- 5 調査面積は、第 3 次調査 15 m²、第 4 次調査 26 m²である。
- 6 調査の体制は、以下のとおりである。
 - ・調査主体 四日市市教育委員会
 - ・調査担当 四日市市教育委員会社会教育課
 - 第 3 次調査 葛山拓也
 - 第 4 次調査 加藤淳次 川崎志乃
- 7 本書の執筆・編集は加藤、川崎が行った。
- 8 本書の方位は、真北を用いた。
- 9 出土遺物および調査記録は、四日市市教育委員会において保管・管理している。
- 10 本書における遺構表示略記号は以下のとおりである。
SD：溝 SH：堅穴住居 SK：土坑

目 次

I	前言	1
1	調査に至る経緯	1
II	調査の概要	2
1	はじめに	2
2	遺構	3
3	遺物	3
III	まとめ	3

I 前 言

1 調査に至る経緯

平成 20 年に市内尾平町地内の公共事業に係る遺跡所在の確認があった。事業計画地は周知の遺跡である永井遺跡（市遺跡番号 137）に含まれており、その保護について四日市市上下水道局下水建設課より同年 12 月 16 日に埋蔵文化財の保存措置及び発掘調査に関する協議の依頼があり、12 月 24 日に回答を行い、平成 21 年 1 月 13 日から第 3 次調査として発掘調査を実施した。

また、平成 26 年に第 3 次調査部分に接続する形で污水管渠布設工事が実施されることとなった。同年 8 月 22 日に埋蔵文化財の保存措置及び発掘調査に関する協議の依頼があり、同日に回答を行い、平成 27 年 1 月 7 日から第 4 次調査として発掘調査を実施した。

[文化財保護法等にかかる諸手続き]

文化財保護法（以下「法」）等にかかる諸手続きは、以下により行っている。

- ・法第 94 条の第 1 項（事業者通知、県教育長宛）
平成 20 年 10 月 24 日付、社会第 502 号
- ・法第 99 条第 1 項（市教育長報告、県教育長宛）
平成 20 年 11 月 10 日付、社会第 502 号— 2
- ・遺失物にかかる埋蔵文化財の発見届（市教育長届出、四日市南警察署長宛）
平成 21 年 1 月 19 日付、社会第 648 号
- ・法第 94 条の第 1 項（事業者通知、県教育長宛）
平成 26 年 7 月 25 日付、社会第 142 号
- ・法第 99 条第 1 項（市教育長報告、県教育長宛）
平成 26 年 8 月 4 日付、社会第 142 号— 2
- ・遺失物にかかる埋蔵文化財の発見届（市教育長届出、四日市南警察署長宛）
平成 27 年 1 月 16 日付、社会第 142 号— 5

II 調査の概要

1 はじめに

四日市市は、南北に細長い三重県の北部に位置し、東は伊勢湾、西は鈴鹿山脈によって限られ、鈴鹿山脈から海岸線に向けて丘陵や台地が延び、沖積平野へと続いている。江戸時代には東海道の宿場町として栄え、古代においても畿内と東国を結ぶ要衝の地であったと考えられる。

永井遺跡は、海蔵川と三滝川に挟まれた生桑丘陵地の南東麓、標高 20~30m に位置し、弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡である。この台地は西側から東側へなだらかな傾斜となり中央には深く浸食された谷があり、この谷の西端は宅地となっている（第1図）。

当遺跡は第1次調査が昭和47年5月~11月にかけて区画整理事業に伴う国庫補助事業として行われた。弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓などが確認され、竪穴住居が密集した地域、約500㎡が永井遺跡公園として保存された。また、第2次調査が平成8年3月に個人住宅の建て替えに伴い行われ、弥生~古墳時代にかけての土坑等が確認されている。

(加藤)

<参考文献>

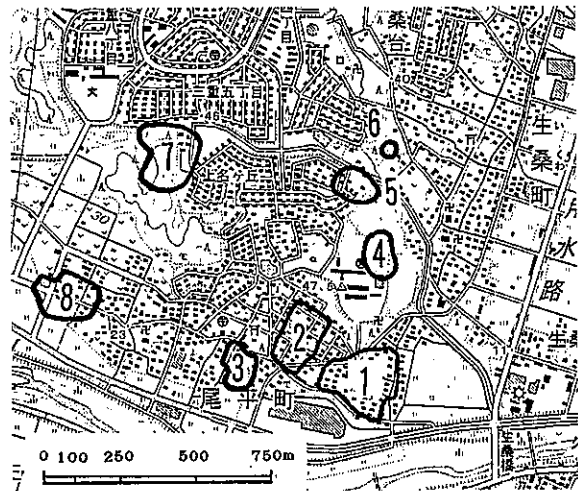
四日市市

『四日市市史 第二巻 史料編 考古 I』 1988

四日市市教育委員会

『永井遺跡発掘調査報告』 1973

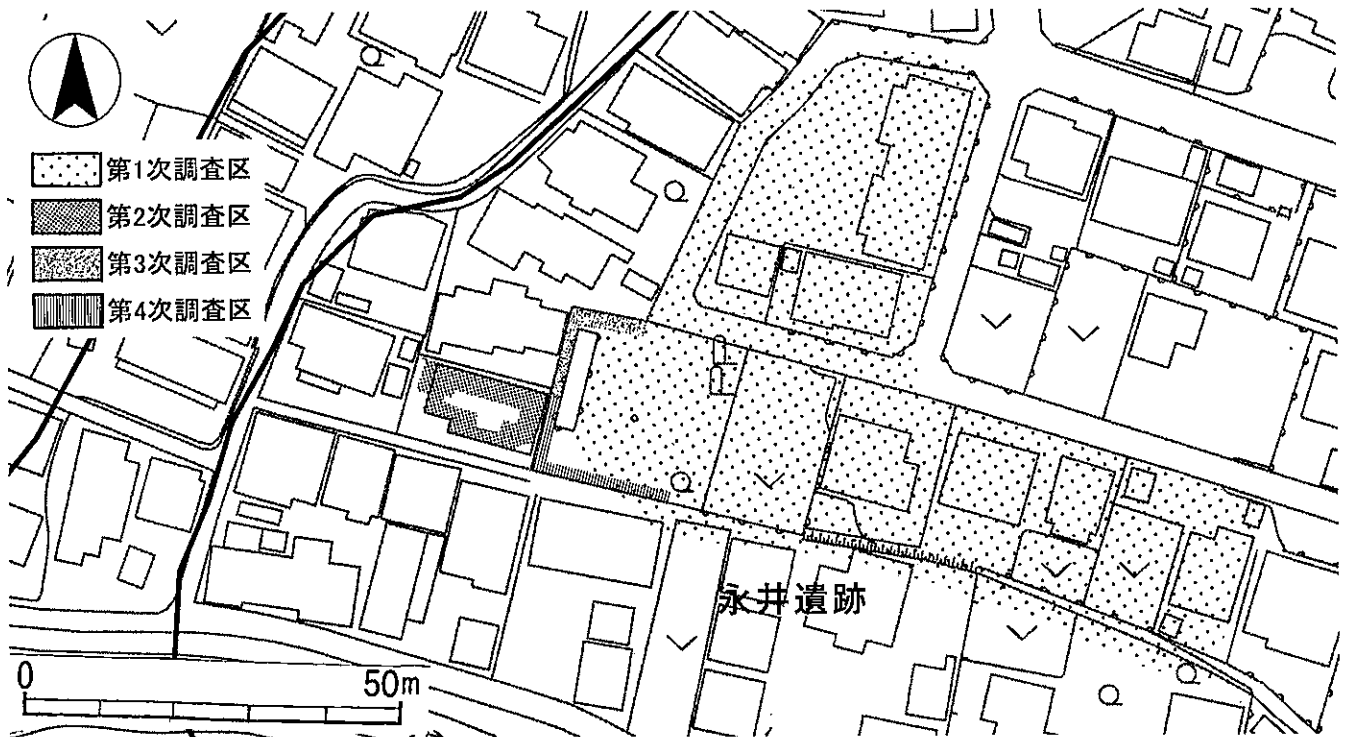
『四日市市文化財保護年報 7』 1996



第1図 遺跡位置図 (1 : 25,000)

[国土地理院 1 : 25,000 菰野・四日市西部より作成]

- 1 永井遺跡
- 2 上畑遺跡
- 3 尾平宮前遺跡
- 4 永代寺山遺跡
- 5 中ヶ谷遺跡
- 6 庚中塚古墳
- 7 岩名遺跡
- 8 辻垣内遺跡



第2図 調査区位置図 (1 : 1,000)

2 遺構

調査区は永井遺跡公園内に位置する（第6図）。

第3次調査（第4図） 第3次調査区は、公園内の北西角から幅0.8m、東方へ長さ9m、南方へ長さ10mのトレンチを設定し、調査を行った。

東西方向のトレンチは、大部分が第1次調査区に相当する地点であった。

遺物包含層は全体に、厚さ0.1~0.3m確認でき、その下部に溝状の窠み2箇所とピット等を検出した。

第4次調査（第5図） 第4次調査区は、第3次調査区の南方の延長上に幅1m、長さ8m、東方へ長さ18mのトレンチを設定し、調査を行った。

東西トレンチの東から3.5m分が第1次調査区に相当する地点であった。

遺物包含層は全体に、厚さ0.1~0.3m確認でき、その下部に竪穴住居3箇所、土坑5箇所、溝1箇所、ピット等を検出した。以下に主な遺構の概略を記す。

SH401・SH404 南北方向のトレンチ南部でSK408と重複している。3m×0.9m深さ0.2mを検出した。出土遺物は弥生土器細片が混在していたが、7世紀前半の須恵器高杯が出土したことから、SH401が7世紀前半の竪穴住居と判断した。

SH409 南北方向のトレンチ中央部で、SD402と重複する。1.5m×0.7m深さ0.16mを検出した。土師器細片が出土している。时期的には、古墳時代後期と考えられる。

SK408 焼土ブロックを多く含んでおり、被熱によって床面が硬化していた。

SD402 南北方向のトレンチ北部でSH409と重複する。幅1.1m長さ0.9m深さ0.2mを検出した。土師器の細片が出土している。

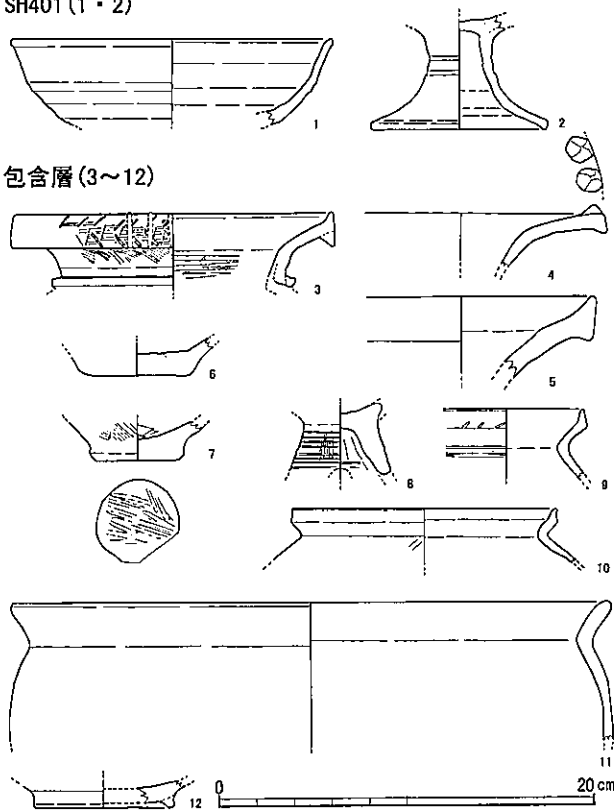
3 遺物

弥生時代から中世前期に至る各時代の土器が出土しているが、細片が多く遺存状態も悪い。量的には、第3次調査区では弥生土器が多く、第4次調査区では弥生土器と古墳時代後期の土師器が多い。以下に、出土遺物の概要を記す。

SH401 出土遺物（1・2） 1は須恵器無蓋高杯の口縁部であり、2は須恵器高杯の脚部である。2の脚部中央付近には沈線が巡らされているものの、透孔がないことから7世紀前半の所産と考えられる。

包含層出土遺物（3~12） 3~10は弥生土器である。3~7は壺であり、3は頸部から大きく外反し、端面にはヘラ状工具で施文が施されている。5・6は平底の底部である。8は脚付壺の脚部である。9は受口状口縁甕であり、10はS字状口縁台付甕である。いずれも弥生時代終末期の所産である。11は土師器鉢であり、古墳時代後期の所産と考えられる。12は山茶碗である。

SH401 (1・2)

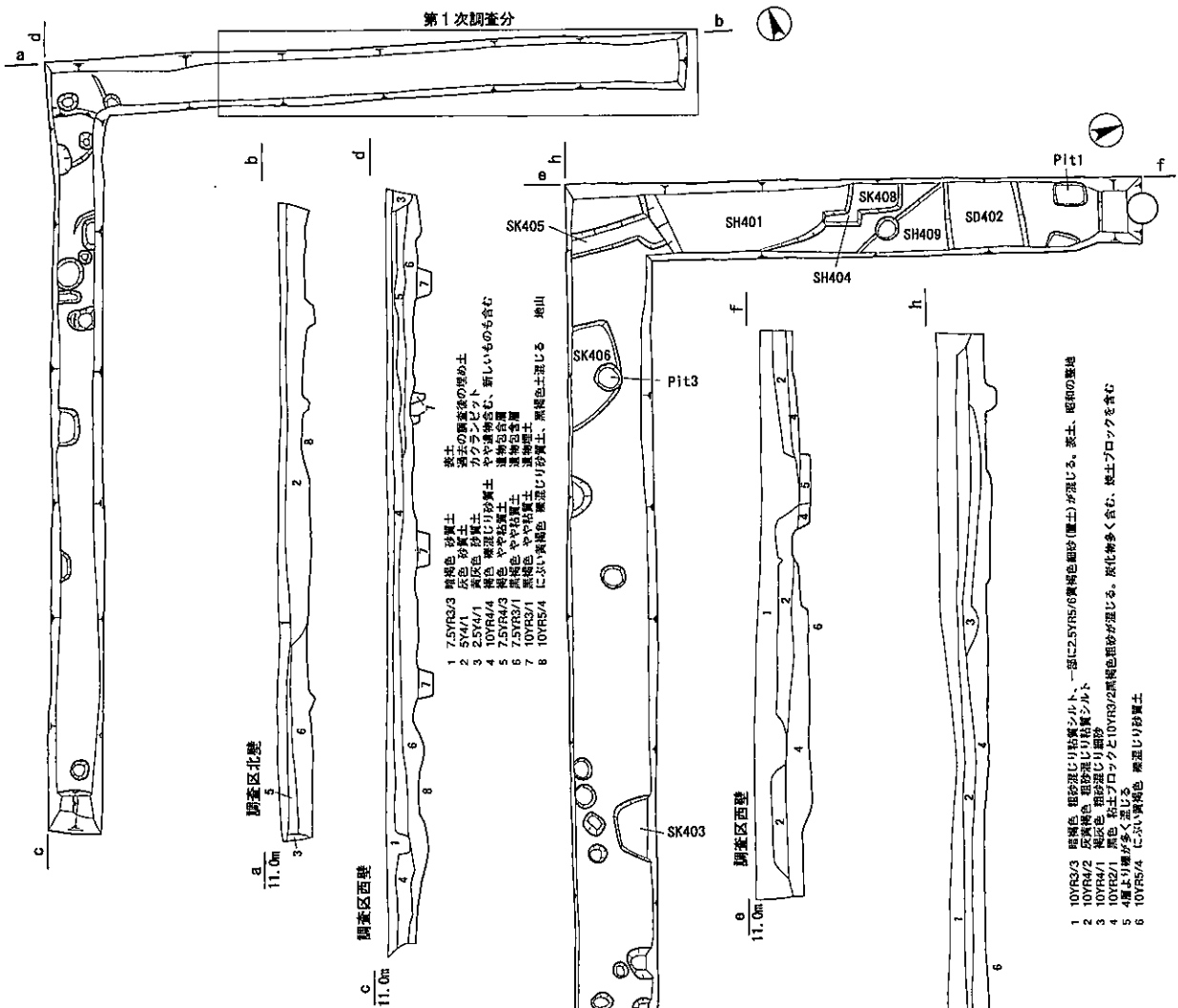


第6図 出土遺物実測図（1：4）

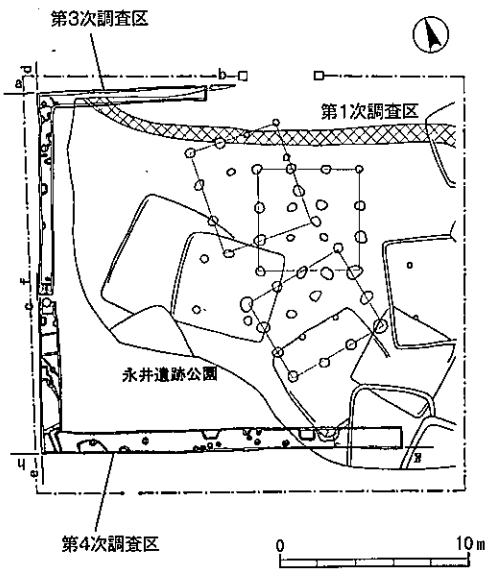
III まとめ

今回の調査では、竪穴住居や溝および土坑、ピットが密集して確認された。各遺構は調査区が狭小なために、部分的な検出にとどまり全体像は明確ではない。

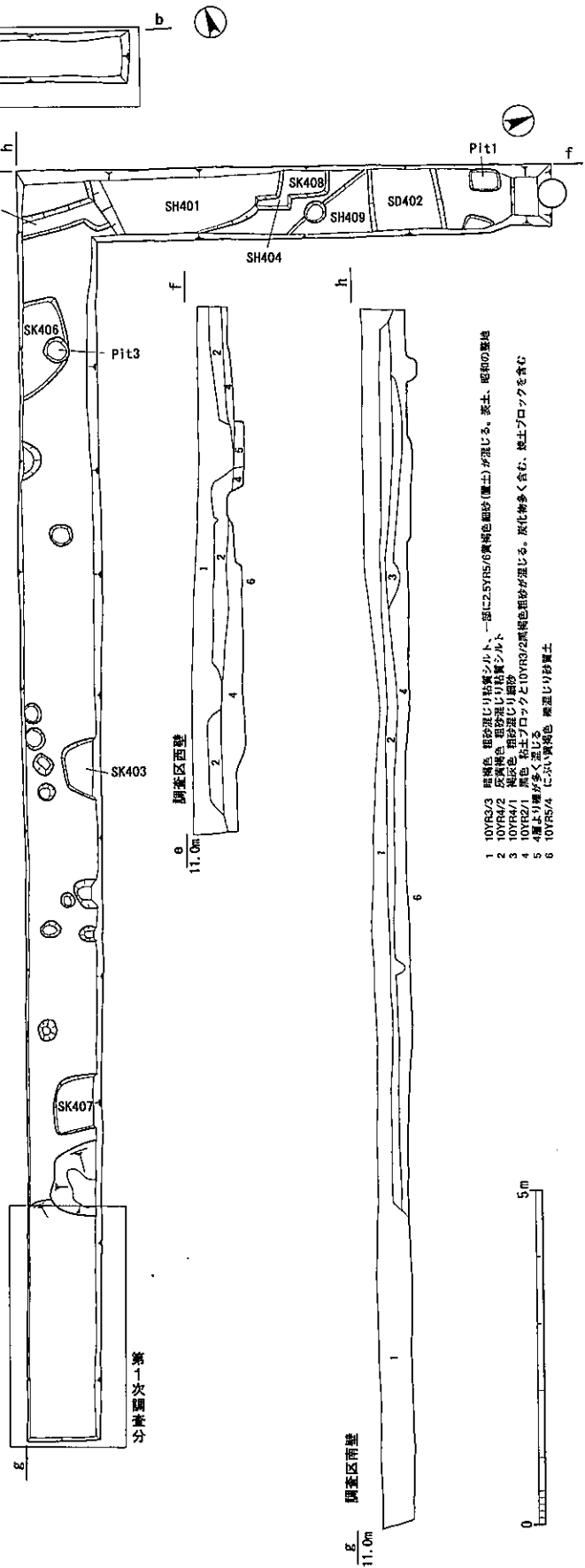
しかし、過去の調査と照合して考慮すると、第1次調査区で確認されていた弥生時代後期から古墳時代後期にかけての竪穴住居群がさらに西側にも広がる点、調査区西部に位置する第2次調査区でも同時期の柱穴や遺物が確認されている点から、これらの遺構は途切れることなく一帯に広く分布していることが明らかになった。（川崎）



第4図 第3次調査区 平面図・断面図 (1:100)



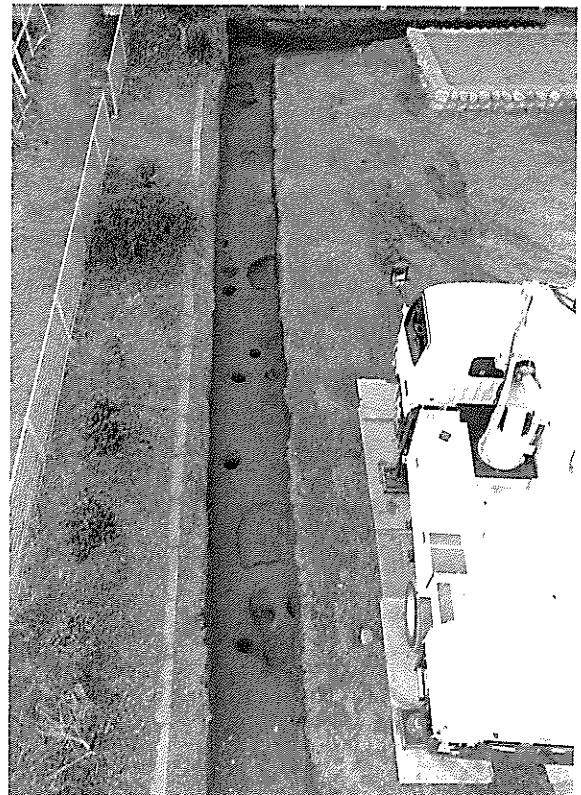
第6図 永井遺跡公園内調査区位置図 (1:400)



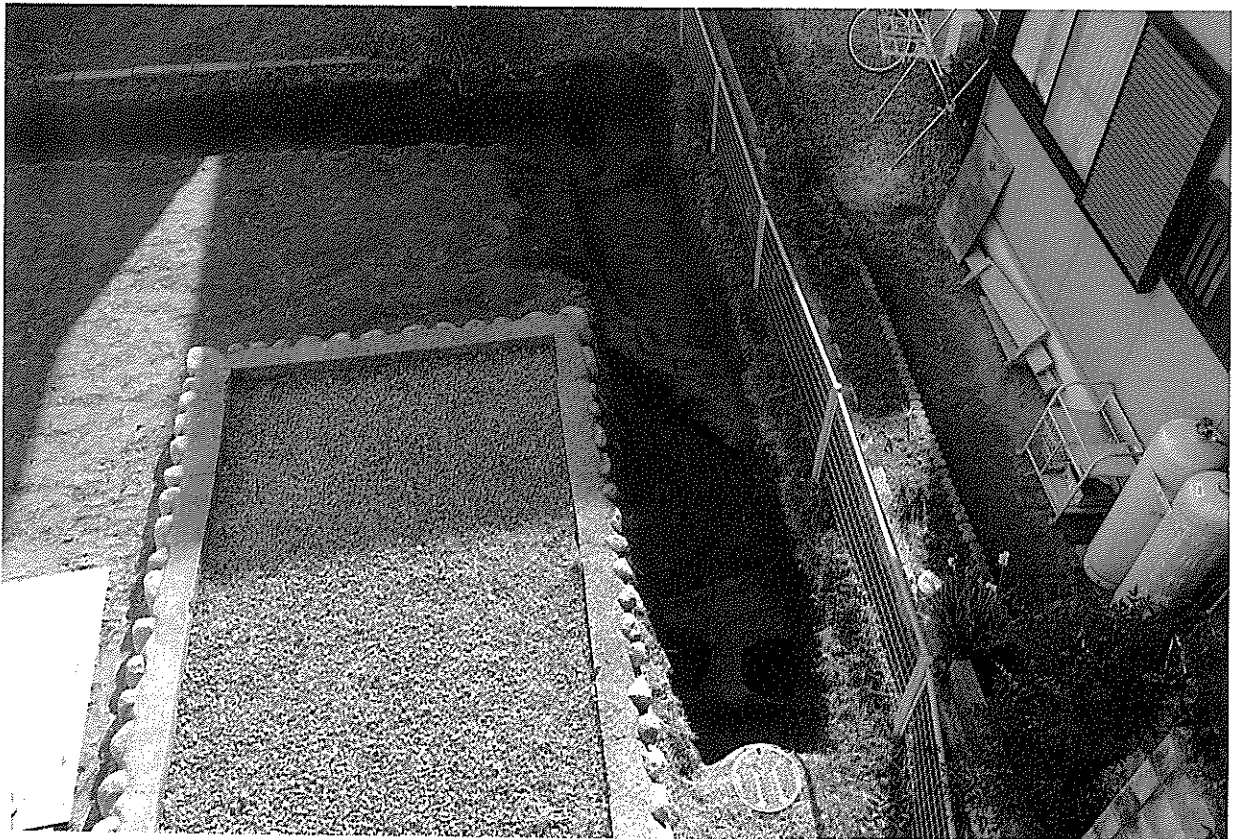
第5図 第4次調査区 平面図・断面図 (1:100)



第3次調査 南北トレンチ 遺構検出状況 (北から)



第4次調査 東西トレンチ (東から)



第4次調査 南北トレンチ (北から)

報告書抄録

ふりがな	ながいいせき 2							
書名	永井遺跡 2							
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	50							
編著者名	加藤 淳次 川崎 志乃							
編集機関	四日市市教育委員会							
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町 1 - 5 TEL 059-354-8240							
発行年月日	2015 (平成27)年 8 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ながいいせき 永井遺跡	よっかいちしおびらちよう 四日市市尾平町	24202	137	34°58'42"	136°35'31"	2009. 01. 13 ～ 2009. 01. 16 2015. 01. 07 ～ 2015. 01. 13	41m ²	尾平污水管渠 布設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
永井遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代		竪穴住居、土坑、溝		弥生土器、土師器		

四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書 50	
永井遺跡 2	
編集・発行	四日市市教育委員会 〒510-8601 四日市市諏訪町 1 番 5 号
印刷	畠山印刷株式会社
発行日	2015 (平成 27)年 8 月 31 日

この冊子は再生紙を使用しています。